

大 ぞす

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、
現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。

へんみ・けいたろう／広島大学理学部を2015年に卒業後、大学院へ進み両生類研究施設（現両生類研究センター）でカエルを研究。2018年、博士課程後期在籍中に広島市森林公園こんちゅう館へ就職。2020年、博士（理学）を取得。

理学部・大学院理学研究科 出身

逸見 敬太郎 さん

広島市森林公園こんちゅう館
技師

生き物好きが高じて 昆虫を仕事に

物心ついた頃から、大の生き物好き。中学以降、植物や魚、哺乳類、昆虫とさまざまな生き物を研究し、学生時代には自転車で東広島キャンパスから広島市森林公園こんちゅう館まで往復4時間かけてアルバイトに通っていました。中でも、昆虫の姿形の多様さや、まるで人間のような複雑な社会を構成する暮らしぶりにとても魅力を感じます。

現在はこんちゅう館の技師として、昆虫の飼育や展示業務、保育園などへの出張授業、絶滅危惧種の保護活動などに携わっています。特に昆虫のふ化について考える際には、広島大学で学んだ発生学などの知識が役立っています。ま

た、博士課程後期では「世界一かわいい」といわれるアフリカのフクラガエルを研究していたのですが、カエルは生餌しか食べないのでとても餌に気を配っていました。生き物の餌に対するノウハウは、現在昆虫の飼育にも生かされています。

生きた展示を通して 子どもたちに魅力を伝えたい

広島市のこんちゅう館は標本ではなく生きた昆虫の展示に特化した、日本でも珍しい施設です。それぞれの昆虫特有の行動を観察できるよう工夫した展示作りも、私の仕事の一つ。例えば、カバーを開けるとシロアリの巣の内部が見える飼育箱を自作しました。私の展示をきっかけに、子どもたちに生き物たちの

面白い生態を知ってもらいたいですね。

昆虫の魅力を伝える際に気を付けているのは、先入観を与えないこと。見て触って、どう感じるのかは子どもたちの感受性に任せるようにしています。

昨年の大雨の影響で現在※は閉館中ですが、開館した際には、元気な昆虫たちとよりパワーアップした展示を皆さんに楽しんでいただきたいと思います。

広大のここがええね！

東広島キャンパスは生き物好きにとって天国のような環境でした。珍しい生き物を探して、キャンパス中を走り回っていましたね。あれだけ生物多様性の豊かなキャンパスはなかなかないのではないのでしょうか。

※ 2022年1月取材当時